2026年12月2日(水)–4日(金)、8日(火)–9日(水) アテネ・フランセ文化センター

東京国際映画祭2026
提携企画

台湾語映画誕生70周年特集 in Japan



The 70th Anniversary of Taiwanese-language Cinema

『**夫の秘密**(丈夫的秘密)』1960 | 林摶秋(リン・トアンチウ)
『**地獄から来た花嫁**(地獄新娘)』1965 | 辛奇(シン・チー)
『**五月十三日 悲しき夜**(五月十三傷心夜)』1965 | 林摶秋
『**第6の容疑者**(六個嫌疑犯)』1965 | 林摶秋
『**モーレツ花嫁 気弱な婿さん**(三八新娘憨子婿)』1967 | 辛奇
『**ドラゴン・スーパーマン**(神龍飛俠)』1968 | 小林悟+邵寶輝(シャオ・バオフイ)☆
『**さようなら十七歳**(再會十七歲)』1969 | 辛奇 ☆
『**チマキ売り**(燒肉粽)』1969 | 辛奇
『**危険な青春**(危險的青春)』1969 | 辛奇
『**チマキ売り2019**(燒肉粽2019)』2019 | 陳定寧(チェン・ディンニン)★
『**お婆ちゃんの秘密**(阿嬤的秘密)』2019 | 林世菁(リン・シーチン)★
『**前世の恋人の恋人**(前世情人的情人)』2019 | 梁秀紅(リャン・シウホン)★

☆大阪アジアン映画祭2025EXPO上映作品(東京初上映) ★日本初上映

台湾映画のもうひとつの歴史とその魅力を伝える特集

石坂健治
(東京国際映画祭シニア・プログラマー、日本映像学会アジア映画研究会代表)

台湾映画といえば1980年代に巻き起こったホウ・シャオシェン、エドワード・ヤンらのニューウェイブが印象的だが、それ以前も豊かな映画の世界が人々を魅了していた。1955年から81年にかけて台湾語のセリフだけで製作され人気を博した映画「台湾語映画」(台語片)である。その名作が「台湾映画・メディア文化センター(TFAI)」(國家電影及視聽文化中心)によって次々とデジタル修復され、今年の東京国際映画祭では日本未公開の『良き隣人たち(兩相好)』(1962、李行(リー・シン)監督作品)が特別上映された。本特集は、デジタル修復された台湾語映画を特集上映し、台湾映画のもうひとつの歴史とその魅力を伝えるものである。



東京国際映画祭2026提携企画

台湾語映画誕生70周年特集 in Japan

台湾語映画とは何か

韓燕麗
（東京大学大学院総合文化研究科教授）

台湾人口の7割以上が使用する言語が台湾語である。「台語片」こと台湾語映画とは、1955年から81年にかけて台湾語のセリフだけで製作された映画群をさす。総数1000本を超えたこれらの映画は、伝統人形劇をベースにした歌仔戯映画や現代劇のメロドラマ、コメディやホラーなどのジャンル映画が多く、幅広い年齢層を魅了してきた。

その後も台湾語を部分的に使ったものとしてはニューウェイブ作品や古い台湾語映画のリメイクなどがあったが、大量生産の時代に庶民に愛されていたこの1000本あまりの映画群とは区別して考えられている。

台湾映画・メディア文化センターによる収集・修復作業が1990年代初頭から始まり、現存するフィルムは200余り。近年では主要作品が次々とデジタル化されている。

12月2日（水）

16:00– **夫の秘密**（丈夫的秘密）[100分]
お婆ちゃんの秘密（阿嬤的秘密）[25分] ★日本初上映
18:30– **地獄から来た花嫁**（地獄新娘）[117分]

12月3日（木）

16:20– **五月十三日 悲しき夜**（五月十三傷心夜）[97分]
18:30– **第6の容疑者**（六個嫌疑犯）[108分]

12月4日（金）

16:00– **モーレツ花嫁 気弱な婿さん**（三八新娘憨子婿）[101分]
前世の恋人の恋人（前世情人的情人）[21分] ★日本初上映
18:30– **チマキ売り**（燒肉粽）[89分]
チマキ売り2019（燒肉粽2019）[23分] ★日本初上映

12月8日（火）

16:30– **危険な青春**（危險的青春）[95分]
18:30– **チマキ売り2019**（燒肉粽2019）[23分]
お婆ちゃんの秘密（阿嬤的秘密）[25分]
前世の恋人の恋人（前世情人的情人）[21分]

12月9日（水）

13:30– **ドラゴン・スーパーマン**（神龍飛俠）[90分] ☆大阪アジアン映画祭2025EXPO上映作品（東京初上映）
15:30– **さようなら十七歳**（再會十七歲）[91分] ☆大阪アジアン映画祭2025EXPO上映作品（東京初上映）
17:10– シンポジウム
四方田犬彦（映画研究者、比較文学者）
三澤真美恵（台湾映画史研究者、日本大学教授）
石坂健治（東京国際映画祭シニア・プログラマー、日本映像学会アジア映画研究会代表）
18:30– 交流会（会場：アテネ・フランセ地下1階カフェテリア）

入場料

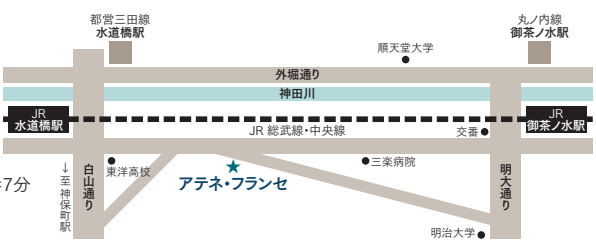
[1回券] 一般1,000円／シニア・学生・障がい者800円／会員600円
[2回券] 1,200円
＊会員＝台湾文化センター、アテネ・フランセ文化センター
＊各プログラム入替制、先着順入場
＊シンポジウム＋交流会は本特集のチケット半券提示で入場自由

主催 台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター | Taiwan Cultural Center, Taipei Economic and Cultural Representative Office in Japan
共催 アテネ・フランセ文化センター | Athénée Français Cultural Center
日本映像学会 アジア映画研究会 | Asian Cinema Study Group, Japan Society of Image Arts and Sciences (JASIAS)
提携 東京国際映画祭 | Tokyo International Film Festival
協力 台湾映画・メディア文化センター（國家電影及視聽文化中心） | Taiwan Film and Audiovisual Institute
大阪アジアン映画祭 | Osaka Asian Film Festival

台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター
日本映像学会 JASIAS
TAIWAN FILM & AUDIOVISUAL INSTITUTE 國家電影及視聽文化中心
ATHÉNÉE FRANÇAIS CULTURAL CENTER アテネ・フランセ文化センター
TOKYO INTERNATIONAL FILM FESTIVAL 2026
OSAKA ASIAN FILM FESTIVAL

会場＆お問合せ

アテネ・フランセ文化センター
東京都千代田区神田駿河台2-11 アテネ・フランセ4階 | JR・地下鉄 御茶ノ水・水道橋駅より 徒歩7分
TEL.03-3291-4339（月曜13:00–17:00 | 火～土曜13:00–20:00 | 日曜休館）
https://athenee.net/culturalcenter/ | infor@athenee.net





夫の秘密
丈夫的秘密

1960年｜100分｜DCP
監督：林摶秋｜**脚本**：陳舟｜**撮影**：陳正芳
出演：張美瑤、張潘陽、吳麗芬

竹田敏彦の小説『涙の責任』（1939）と松竹の同名映画（1940）をベースにした作品。ヒロインを演じた張美瑤はのちに台湾と東宝の合作『香港の白い薔薇』（1965）にも出演した。公開当時はそれほどヒットしなかったが、2002年に香港映画評論学会が「華語映画ベスト200」の一本として選出し、再評価の機運が高まっている。



地獄から来た花嫁
地獄新娘

1965年｜117分｜DCP
監督：辛奇｜**脚本**：張淵福｜**撮影**：洪慶雲、林贊庭
出演：金玫、柯俊雄、柳青、歐威、戴佩珊

エリナー・ヒバートの小説『琥珀色の瞳の家庭教師』（*Mistress of Mellyn*, 1960）を映画化したもの。殺人事件や幽霊などミスティックな要素が満載のホラー映画だが、当時まだ7歳の子役だった戴佩珊の演技力も見どころの一つ。父親が映画プロデューサーだった彼女は4歳から映画に出演し、今回の上映作では4年後の『チマキ売り』で主役を演じている。



五月十三日 悲しき夜
五月十三傷心夜

1965年｜97分｜DCP
監督：林摶秋｜**脚本**：洪信德（劍龍）、林翼雲（林摶秋）｜**撮影**：林鴻鐘
出演：張清清、陳雲卿、張潘陽

姉妹が同じ男性に恋心を抱くという常套的なストーリーだが完成度が高く大ヒットした作品。5月13日の大稲埕（台北の西部にある古い市街地）における祭りの盛況を映像に記録したことで知られるが、中盤では「反攻大陸」（大陸に反撃せよ）のセリフが出るなど、この時代の記録としても興味深い。



第6の容疑者
六個嫌疑犯

1965年｜108分｜DCP
監督：林摶秋｜**脚本**：林翼雲（林摶秋）｜**撮影**：陳正芳、簡栄添
出演：呉東如、張潘陽、夏琴心、田明

1965年に完成するも出来に不満足だった監督がフィルムを封印、90年にようやく初公開された作品。原作は南條範夫による推理小説『第六の容疑者』で、井上梅次監督による同名の日本映画（1960）がある。主人公が住むマンションのセットや軽快なジャズ音楽などが大都会のモダンな雰囲気を醸し出している。



モーレツ花嫁 気弱な婿さん
三八新娘憨子婿

1967年｜101分｜DCP
監督：辛奇｜**脚本**：陳小皮｜**撮影**：陳忠信
出演：金玫、石軍、金塗、楊月帆

強い女性と弱い男性のカップルによる爆笑コメディ。美青年の家の外で群れる女性たち、結婚前の同棲を提案するヒロイン、そしてエンディングで結婚相手の家に嫁いで行く老父など、笑いの中にも伝統的な家父長制の秩序を転覆させるような設定もあって驚かされる。



ドラゴン・スーパーマン
神龍飛俠

1968年｜90分｜DCP
監督：小林悟、邵寶輝｜**脚本**：小林悟、陳小島｜**撮影**：浜野誠之
出演：桂治邦、柳青、呉敏、白沙、賴德南

悪の組織「宇宙党」が、ひとりの男を殺害した。事件を追う記者は、盲目の歌姫と運命的な出会いを果たす。犯行を重ねる宇宙党の前に、謎の覆面ヒーローが立ちふさがる！ 台湾特撮映画の幕開けを飾った記念碑的作品。桑田次郎の漫画『まぼろし探偵』を原作とした、日台映画人による合作映画。☆

東京国際映画祭2026提携企画
台湾語映画誕生70周年特集 in Japan

◉全作品日本語字幕付き



さようなら十七歳
再會十七歲

1969年｜91分｜DCP
監督：辛奇｜**脚本**：陳小島｜**撮影**：黃瑞章
出演：何玉華、藍琪、洪洋、李鵬、素珠

麗芬は秋生にひそかに想いを寄せていたが、いじめっ子の美珍に目をつけられてしまう。壮絶ないじめから彼女を救ったのは、美珍の父だった。美珍の父母と麗芬の母、果たされなかった愛の記憶が彼らの運命を揺さぶっていく。主題歌はジュディ・オングの感動的な一曲。☆



チマキ売り2019
燒肉粽2019

2019年｜23分｜DCP
監督：陳定寧｜**脚本**：陳定寧｜**撮影**：蔡旻翰
出演：蔡淑臻、許仙姬、林義雄

50年前の同名の名作を「前世」として紡ぎ直した台湾語映画の新作短編。交錯する旧作のモノクロ映像と現代のカラー映像が、世代を超えた親子の絆と宿命を浮き彫りにする。旧作未見の観客も一瞬で物語へと引き込む、胸を打つ感動のドラマ。占い師役の許仙姬は著名な歌仔戲女優である。



チマキ売り
燒肉粽

1969年｜89分｜DCP
監督：辛奇｜**脚本**：辛金傳（辛奇）｜**撮影**：廖慶松
出演：陽明、金玫、金塗、戴佩珊

1949年に発表された人気の流行歌が映画のタイトルになり、映画の中でも父と娘が雨の夜にチマキを売り歩くシーンで挿入歌として使われている。ファミリー・メロドラマで涙を誘う場面が多いがコメディの要素もあり、冒頭におけるノワール的な場面に辛奇監督の力量がうかがえる。2019年に現代版リメイクも作られている。



お婆ちゃんの秘密
阿嬤的秘密

2019年｜25分｜DCP
監督：林世菁｜**脚本**：林世菁｜**撮影**：杜政庭
出演：慕容華、張楷奕

1960年の台湾語映画『夫の秘密』の「後日談」を描いた完成度の高い短編。旧作ヒロインの孫が宿題のためにカメラを回すモキュメンタリーの手法を採用し、リアリティ溢れる世界観を構築。過去の映画の記憶と現代を地続きに繋ぎ出す仕上がりが光る。



危険な青春
危險的青春

1969年｜95分｜DCP
監督：辛奇｜**脚本**：辛金傳（辛奇）、張宏基｜**撮影**：廖慶松
出演：石英、鄭小芬、高幸枝

風俗産業の実態や売春の斡旋など道徳が崩壊した社会の暗黒面を暴いた作品。青少年に対する教訓的メッセージをラストに出してはいるが、同時期の台湾で作られていたいわゆる「健康写実主義」の北京語映画とは正反対の趣になっている。のちに台湾ニューウェイブの侯孝賢監督とコンビを組むことになる編集の名手・廖慶松が本作と『チマキ売り』では撮影を担当している。



前世の恋人の恋人
前世情人的情人

2019年｜21分｜DCP
監督：梁秀紅｜**脚本**：梁秀紅｜**撮影**：陳克勤
出演：呉朋奉、江沂宸

全編モノクロである本作は、1967年のコメディ映画『モーレツ花嫁 気弱な婿さん』の映像を高度な編集によって巧みに織り交ぜる。同性婚やSNSといった現代的テーマを盛り込み、台湾語に英語を混ぜた軽妙な台詞回しが新鮮な魅力を放つ。

作品紹介執筆：韓燕麗
☆のみ大阪アジアン映画祭ウェブサイトより転載

作品画像提供：台湾映画・メディア文化センター
以下の3作品を除き：©Taiwan Film and Audiovisual Institute
『チマキ売り2019』『お婆ちゃんの秘密』『前世の恋人の恋人』：©Taiwan Film and Audiovisual Institute, Public Television Service, and Golden Horse Film Academy
All rights reserved.